

平成29年度 第2回山梨県考古博物館協議会議事録

1 日時 平成29年11月22日(水) 13時30分～15:00

2 場所 考古博物館(風土記の丘研修センター)

3 出席者 (敬称略)

(委員) 井出薫子、笹本森雄、田代孝、丹沢公彦、丹沢良治、
辻村和人、中村京子、長澤宏昌、古屋美代、前田友也、渡邊富孝

(事務局) 萩原館長、一瀬副館長、村石文化財指導監、高野次長、
小林学芸課長、総務課員3名

4 会議次第

- (1)開会
- (2)議事
- (3)その他
- (4)閉会

5 会議に付した事案の件名

- (1)平成29年度 考古博物館経過・予定事業について
- (2)平成30年度 第36回特別展(予定)について
- (3)考古博物館利用状況について
- (4)委員提言に対する対応・検討状況について
- (5)その他

6 議事の概要

(委員)古代アンデス文明展については、現在、東京の国立科学博物館で行われている内容と同じものになるのか。

(事務局)会場の広さ等の状況により、展示物は異なる可能性があるものの、主要な展示物は同じである。

(委員)国立科学博物館の入館状況は。

(事務局)具体的な数字は現在、照会中である。

(委員) 古代アンデス文明展にも期待しているが、山梨の「縄文王国」の素晴らしさを県内外に広く周知する取組や企画を行ってほしい。

(事務局) 来年度、フランスへ山梨、長野、群馬、新潟等の縄文土器を展示する機会を、再来年度は韓国へ山梨の縄文土器を展示する機会を予定しており、今後、県内外に向けて積極的な情報発信に努めて参りたい。

(委員) 学校関係の入館者が減少。特別展のテーマが「棺(ひつぎ)」であることに関係しているのか。いずれにせよ一度減少した入館者数は取り戻すことは難しいため、学校関係者に要望を聞いて、展示の内容等を見直す必要があるのでは。

(事務局) 棺(ひつぎ)には怖いイメージがあることを考慮し、主題から漢字を外すことでイメージの改善を図った。学校側の意見要望等を踏まえた対応が必要であると考えている。

(委員) 今回、特別展の入館者数が少ない。関心の低さの理由として、県内の出土品が陶棺1点のみであることが要因。本県に由来する展示品を多く集めなければ、県民の関心を集めることができないのでは。 実際は80点余りを展示

(事務局) 東京国立博物館においては、出土した地元に対して優先的に出土品の貸出を行うと聞いている。来年度以降、東京国立博物館の費用負担で行う「収蔵品貸与促進事業」も予定されており、「借りる」という形ではあるが、今後は「里帰り」の機会が増加すると期待している。

(委員) 周年記念時の特別展は予算規模が大きいのか。また入館料は高く設定されるのか。

(事務局) 周年事業は、通常の特別展と比較して予算規模は大きい。必要経費が増加するため、その見合いで入館料を高く設定している。

(委員) 赤字になることはあるのか。

(事務局) これまでの周年事業は実行委員会方式で(株)テレビ山梨(UTY)との共催。初回のシカン展は全額UTYで経費を負担。近年は収支ともにUTYと県の折半となっている。直近では若干の赤字という状況である。

(委員) 特別展について、その時代におけるトレンド等を踏まえる必要がある。県民がどのような展示等を求めているのか、調査を行うべき。例えばテレビ局等では調査を十分に行うことにより、結果的に人を多く集めることに成功している。

(委員) 赤字(経費から入館料を控除した県の持ち出し)の状況は。

(事務局) 通年の特別展の場合、700~800万程度(の赤字)。周年事業の場合、100~200万程度(の赤字)。

(委員) 100~200万程度の赤字であれば頻繁に実施すべきでは。

(事務局) 周年事業は、これまで巡回展という形で実施しており、企画経費(展示物の調達経費等)を他館と負担している状況。本館単独で実施することは予算的に困難である。また、考古博物館という立場上、考古学というテーマに基づき企画の選定を行うため、毎年実施できるかどうかは不透明な状況。

(委員) 考古博物館における展示スペースの狭さは課題。増設等、具体的な話はあるのか。

(事務局) 前知事、現知事に対して、増設に関して要望を行っているが、県の財政状況から難しいとの回答を受けた。特別展を開催するために、常設展の展示スペースを縮小している現状を改善したいと考えている。

(委員) 県民に対して考古博物館の存在を認知してもらうため、考古博物館に位置しているナウマン象を移設し、(ナウマン象の)正面を県道側へ向けるよう提案したい。

(委員) 今回の特別展で設置されている棺の写真やイラストなどを用いたフラッグは素晴らしい。このような外向けのアピールは賛成である。

(委員) 常設展の場所が狭いという意見があったが、県に対して積極的に増設等に係る予算要望を行うべきである。また、リニアの駅が近いこともあるので、入館者の増加を図るため、何を目玉にするか、どのようなストーリーをつくるか、検討すべきである。

(委員) 他県では関連施設間に格安のバスが出ており、大変便利である。

(委員) 「縄文王国山梨」というフレーズは県外でも認知されているのか。

(事務局) 山梨、長野、新潟等が縄文の遺跡等が充実していることは知られているが、若い世代等に対しては、浸透が不十分である。

(委員) 県内の小中学生に認知させる仕組みはあるのか。県内小中学生が当たり前のように「縄文王国山梨」を認知されている状況が求められる。

(事務局) 山梨の縄文土器や遺跡は素晴らしい物が多いが、まだ PR が不足しているため、展示等を通じた周知を図って参りたい。

(委員) 「縄文王国山梨」の歌を県内小中学生から公募して、縄文フェス等で歌っていくことを提案したい。また、縄文フェスは毎年実施する予定はあるのか。

(事務局) 縄文フェスは文化庁の補助金を受けて実施しており、毎年実施できるとは限らない。

(委員) 山梨単体ではなく、山梨、長野、新潟の3県を一括りとして PR する方が良いのではないか。それぞれの県で優れている部分を PR しながら、ストーリー等を持たせて展示等を行う必要があるのでは。

(事務局) 長野県には尖石などの景観の良い遺跡等がある一方で、出土品は山梨が優れていると考えている。長野県や新潟県などの周辺地域との連携を強化して参りたい。

(委員) 旅行会社が興味を持ち始めている兆候があり、今後ツアー等が組まれること等があればよい。

以 上